

## 友奪った震災 風化させない

阪神大震災で友人を亡くした八尾市の会社員原田彰子さん(52)が17日、4年ぶりに防災のイベントを開く。あの日から16年。震災の記憶の風化が伝えられ、東南海・南海地震の発生も危惧されることから、再開を決めたという。

原田さんは震災前年の1994年、仲間と大阪の文化などを学ぶ勉強会「熟塾」を結成し、代表になった。震災では、活動などを通して仲良くなった兵庫県西宮市の会社員伍嶋さん(当時27歳)が自宅で生き埋めとなり、亡くなった。伍さんとは会社も同じで震災の数日前にも会った。明るく、妹思いだった伍さん。「なんで、あの若さで逝くの。夢もあったのに」と切なかった。葬儀に中国から参列した伍さんの両親が「代わってやりた

# 防災塾を復活

4年ぶり

## 八尾の原田さん あす、大阪市大准教授招き

いと涙する姿も印象に残る。熟塾の活動は文化、芸能、歴史が中心だが、震災の翌年から1月17日には応急手当での講習会などを開いた。当初は100人以上が参加したが、年々減少し、2004年には約20人に。07年、防災施設を見学したのを最後にやめた。

その後、ハ1・17は吊いの日として一人で過ごした。早起きして被害が甚大だった阪神地域を向いて、犠牲者の冥福を祈った。震災から15年を迎えた昨年、多くの震災報道に触れ、あの日をもう一度かみしめた。「震災を忘れてはいけない。集まりが悪くても、次の災害への備えを考え直したい」と思い返し、イベントを再開することにした。

イベントは17日午後7時から、大阪市浪速区湊町、難波市民学習センターで。地盤に詳しい大阪市立大の原口強准教授が「阪神大震災の教訓から学ぶ 大災害時代を生き抜く『水都大阪』の視点」をテーマに話す。一般1500円、学生500円。問い合わせは原田さん(072・994・20056)。



「震災を忘れず、次の災害に備えるきっかけを考える17日にしたい」と話す原田さん(大阪市中央区で)